

王子公園再整備に関連する都市計画の説明会（10月9日・10日）

【説明会でいただいた主なご質問等と市の回答】

公園全体（緑の広場・シンボルプロムナード等）

- 樹木は具体的に何本伐採するのか。
 - 動物園内の樹木にナンバリングが無いものは伐採対象か。
- 今後、詳細な検討を進め、設計や施工計画を立案する際に、樹木の保存や移植、伐採、新たな植樹等の植栽計画を明らかにしていきます。桜も含めた既存樹木の中には、老木化や活力の低下したものもみられますが、新たな植樹などにより現状以上の本数を確保し、桜の名所も継承していきます。桜の通り抜けルートがさらに魅力的なものとなるよう、シンボルプロムナードには新たに桜を植樹し、通り抜けルートを拡大します。
 - 市で実施した樹木調査においては、GPSを用いて計測しており、本調査でナンバリングは行っていません。

- 現在川沿い園地にある水の流れていない水遊び場は無くなるのか。有効利用するのか。
 - 坂道が多くて、身体障害者や高齢者が大変。ベビーカーや車椅子の方のために、階段が無いようにしてほしい。
 - シンボルプロムナードは、イメージ図どおりになるのか。こんな綺麗な状態どうやって維持していくのか。
- 川沿い園地について、ご指摘の水遊び場の取り扱いは現在のところ未定です。既存の樹木等を活かしながら、良好な見通しとなるよう整備内容の検討を進めていきます。
 - ベビーカーや車椅子の方も含め、公園内及び公園周辺において快適に回遊していただけるよう設計を進めていきます。
 - 維持管理面においても引き続き効果的な対策を研究し、維持管理が困難となる特殊な素材等の使用を避け、持続的に維持管理できるよう検討を行っていきます。

- 大学誘致に公益上特別の必要があるということは認められない。
 - 大学誘致により、都市公園法を廃止するということは違反ではないのか。
- 大学は教育・研究機関としての機能に加え、若年定住・交流人口の増加にも大きく寄与し、地域の活性化や地域課題解決など、地域社会において重要な役割を担っており、多大な公益性を有しています。
 - この度の公募においては、約4,000人の学生数のキャンパスを設ける提案を受けており、定住・交流人口の増加や周辺地域の活性化に大きく寄与するものです。また、現代の複雑な課題に対応する人材を育成するとともに、授業の一環として、地域住民と学生が協働する機会を設けることとされています。加えて、社会人や市民に広く学び直しの機会を提供し、多様な学びのニーズに応えることとされています。これらを通して、大学の教育・研究活動が地域課題の解決や地域貢献に繋がるものと考えています。
 - この他にも、大学の敷地は一般に開放され、レストランやカフェ等の大学施設を市民が

利用できるなど、市民が日常的に気軽に訪れることのできる場所となることに加え、防災機能の向上に寄与する提案をいただいています。

- このように、新たな大学の整備は「公益上特別の必要性がある場合」に該当するものと考えています。

大 学

- 大学誘致前提だからおかしい。動物福祉を優先し大学誘致はその後で考えるべき。
- 動物園の敷地面積は、現在と同じにすることになっているが、大学誘致が前提だからではないか。
- 動物福祉を考えているのなら、動物園を拡充するべきではないか。

- 令和4年12月に王子公園再整備基本方針を策定し、園地、スポーツ施設、動物園、大学、防災機能などについて、5つの基本目標を定め、検討を進めています。

再整備にあたっては、公園内の施設を適切に維持更新し、将来世代へ確実に継承するため、今ある施設をそのまま更新するのではなく、王子公園エリアの新たな価値を創出する必要があります。

- 大学は、教育・研究機関としての機能に加え、若年層人口の受け皿として、転入や定着促進、昼間人口の増加にも大きく寄与し、地域の課題解決、地域経済の基盤強化など、地域社会においても重要な役割を果たすことから、新たな価値を創出するための最も有力な施策であると考えています。
- 動物園については、動物園ゾーンとして現在と同程度の敷地面積を確保することとしており、その中で施設の更新や飼育環境の充実を図っていきたいと考えています。

動物収集状況については、地球規模で野生動物の絶滅が進み、また「ワシントン条約」などにより希少動物の取引が制限されるなど、特に海外からの動物入手が困難となっています。このような状況下で、生物多様性保全に貢献しながら、動物園として持続できるよう、コレクションプランを策定することが求められています。

今回策定するコレクションプランは、(公社)日本動物園水族館協会の方針に準拠したものであり、動物福祉に配慮した快適な飼育環境を創出していくこととしており、現在のスペースでしっかりと対応できると考えています。

- 大学はポートアイランドへ誘致すべき。
- 関西学院大学（大学設置・運営事業公募による「優先交渉権者」）が提案した大学のイメージ図を見る限り、観覧車と比較して大きなハコモノになっている、景色が変わってしまう。
- 学生 4,000 人がシンボルプロムナードや水道筋商店街に溢れ、高齢者が歩けなくなる。
- 4,000 人の学生が来れば住民は困る。専門の学科だけ来れば、数十人の学生と先生で済む。
- 大学誘致に対し、市民団体から 10 万近い署名がきていると思うが、意見が一切載っていない。

- 少子化が進む中、学生が確保しやすい大都市中心部への立地志向が高まっています。王子公園は、阪神間の山麓部の交通利便性が高い文教エリアに立地しており、文教都市・神戸としての地位を高め、都市間競争に打ち勝つためにも、王子公園は大学誘致に最適なエリアであると考えています。
- 大学の建物について、優先交渉権者からは六甲山の山並みに配慮した分棟配置による周辺の自然環境と調和する施設の整備などの提案をいただいています。今後も、大学との協議の進捗にあわせて、市民のみなさまに情報をお伝えします。
- また、約 4,000 人の学生が王子公園に通学することで、水道筋商店街をはじめとした周辺地域の活性化に大きく寄与するものと考えています。
- 再整備の検討にあたっては、市民や議会の意見を踏まえた案の見直しや市民との意見交換会など、丁寧な説明や意見聴取を重ねるとともに、検討状況やいただいたご意見等について、市ホームページへの掲載やミニニュースの全戸配布等を通じて、広く情報発信に努めてきました。また、基本計画（素案）の市民意見募集にあたっては、市民ヒアリング等で市民の皆様から頂いた主なご意見や、基本計画（素案）にどのように反映したのかななどを議会に報告するとともに、市ホームページでは、大学誘致に対するご意見も含め、項目ごとにまとめたうえで全て掲載しています。

- 経済効果を説明してほしい。マイナス面が全く考慮されていない。
- 経済波及効果について、10 年以上前の算出方法となっており現在と合っていないのでは。

- 経済波及効果については、令和 4 年度に最新の各種統計データ、アンケート調査結果等を用いて試算したものであり、直接効果は年間 74 億円、総合効果は年間約 116 億円となります。

- 大学が撤退したらどうなるのか。商業地になるのか、それとも市で買い戻しが出来るのか。
- 関西学院大学との土地譲渡契約の時期は、いつ頃を予定しているのか。

- 契約条件の違反等が判明した際、契約から 10 年以内であれば土地を買い戻すことができる特約を設けています。
- また、公募要項で、契約事業者が、本市の承認を得ることなく、土地を第三者に譲渡または賃貸することを禁止しており、土地譲渡契約にもその旨の条項を盛り込む予定です。
- 加えて、建築物の用途等を大学及び大学関連施設に制限するよう、地区計画に定めることとしており、商業地など大学以外の用途に転用されることはありません。
- 公募要項に記載のとおり、都市計画の変更・決定を行った後に土地譲渡の契約を行う予

定であり、具体的な時期は未定です。

王子動物園

- 動物園を設置している目的と将来的なビジョンを教えてください。
- 動物園の位置づけを明確にしてほしい。単に娯楽や癒しの機関ではなく、命の大切さ、多様性を学ぶ大事な機関ではないか。
- 動物福祉について分かりにくい。市民に分かる言葉できちんと説明してほしい。
- 50-60種を調整種として減らすのはどういうことか。本当に動物福祉を考えているのか。

- 王子動物園リニューアル基本構想（令和4年12月策定）において、5つの目指すべき方向性を定めています。
 - ◇ 「まもる」 種の保存など生物多様性保全に貢献する動物園
 - ◇ 「まなぶ」 動物を通して自然や環境への扉を開く教育の推進
 - ◇ 「ふかめる」 希少動物の保全や動物福祉の向上に資する調査・研究の推進
 - ◇ 「たのしむ」 誰もが安全に安心して楽しめる憩いの場の創出
 - ◇ 「はぐくむ」 市民・地域・来園者と共に歩み行動する動物園
- 王子動物園のリニューアルでは、動物園ゾーンとして現在と同程度の敷地面積を確保することとしており、その中で施設の更新や飼育環境の充実を図っていきたいと考えています。施設の更新にあたっては、公益社団法人日本動物園水族館協会が策定した「適正施設ガイドライン」に基づき、動物の特性に応じた最適な飼育環境の充実を図ることとしており、動物福祉に配慮した快適な飼育環境を創出していきたいと考えています。

また、今回策定するコレクションプランは、(公社)日本動物園水族館協会の方針に準拠したものであり、これに基づき、新たな動物園ゾーンにおいて様々な工夫を凝らしながら、動物園としての役割を十分果たせるよう、適切に進めていきます。
- 動物福祉の向上として、生息環境の再現等により動物本来の行動を引き出す展示方法の導入や、飼育動物が快適に暮らせるための獣舎設備、獣舎環境の充実のほか、高齢動物の療養など、個別管理を要する獣舎設備の整備を行い、動物が健康的にいきいきとした姿で過ごせるよう飼育していくことを考えています。
- 動物収集状況については、地球規模で野生動物の絶滅が進み、また「ワシントン条約」などにより希少動物の取引が制限されるなど、特に海外からの動物入手が困難となっています。このような状況下で、生物多様性保全に貢献しながら、動物園として持続できるよう、コレクションプランを策定することが求められています。

今回策定するコレクションプランは、(公社)日本動物園水族館協会の方針に準拠したもので、動物福祉に配慮した快適な飼育環境を創出していくこととしており、現在のスペースでしっかりと対応できると考えています。
- 「調整種」については50～60種を設定していますが、有識者や動物園の関係者の意見などを踏まえて精査していくことから、変動する可能性があります。調整種については、動物を急激に減らすのではなく、終生飼育、又は他の動物園での導入が可能であれば譲渡するなどにより、他の動物園等とも十分に調整しながら適切に管理していきたいと考えています。

- 遊園地は残す約束だったのに無くなっている。遊園地とレクリエーション施設は違う。
- レクリエーション施設の充実が、遊園地の存続ということなのか。

- 動物園・遊園地は存続します。動物園と遊園地をあわせて、現在と同程度の敷地面積を確保し、リニューアルを行います。
- 現在の遊園地については、現在も多くの方に親しまれていますが、既存の遊具の多くが老朽化しているため、施設の老朽化への対応や動物園としての役割等を踏まえた新たなレクリエーション機能へと転換する必要があると考えています。
- 子どもたちが動物や自然をより身近に感じることができるよう安全で安心なレクリエーション機能を「遊びの広場」や「賑わい広場」に再配置し、年齢層に応じて、それぞれが安全に安心して楽しむことができるよう努めていきます。
- なお、基本計画（素案）【王子動物園編】に記載のとおり、再整備にかかる工程計画のうち、第1フェーズでは、遊園地を現在のまま維持できると考えています。また、観覧車については、老朽化への対応を図りつつ、第2フェーズ以降も含め、当面の間存続させます。

スポーツゾーン

- スタジアムの騒音、光害、交通量について、具体的な数字目標を示してほしい。
- スタジアムの高さはどこから何mなのか分からない。野崎線からどの程度の高さなのか。

- 王子公園周辺への配慮は重要であると考えており、基本計画（素案）において、良好な景観を維持・向上していくため、六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するよう配慮した建築デザインや緑化等を検討していくこととしています。また、スタジアムについて、観客席の屋根・壁・吸音材による防音対策の実施や、周辺環境への光漏れに配慮した照明設備の検討などを行っていくこととしています。

なお、基本計画（素案）と市ホームページのFAQにおいて、建物規模をお伝えするパース図や概略の数値のほか、騒音についても設計の際に順守すべき規制値などを合わせてお示ししているところであり、今後、これらに基づき詳細な調査や設計を進め、具体化を図ります。

- 基本計画（素案）【全体編】14ページの「スタジアム 整備イメージ」におけるスタジアムの高さは、フィールドの地盤面から防音壁を含め北側で10m程度、南側で11m程度（最も高い中央部）を想定しています。なお、スタジアム北側における東西道路との高低差は2mから6m程度になります。

- スタジアムの中にプールを建設する予定は無いのか。
- (子どもたちの) プール無くさないでという意見はどう受け止めているのか。

- 基本方針の策定（令和4年12月）にあたっては、当初素案の発表（令和3年12月）以来、市民や議会の意見を踏まえた案の見直しや市民との意見交換会など、丁寧な説明や意見聴取を重ねてきました。ご指摘のテニスコートやプールなど公園内の施設についても、利用状況や全市的な配置状況などを踏まえ、園内外で再整備、代替・機能確保を図

り、出来る限り従前施設の機能を確保することとし、基本方針において「再整備による各施設の方向性」として位置付けたところです。

- 再整備において、子どものための空間の確保は重要であると認識しており、基本計画（素案）の策定にあたっては、子育て世代を対象にした、市ホームページでの意見募集や王子動物園内でのアンケート調査を実施するなど、施設を利用する子どもやその保護者の意見も聞きながら検討を進め、基本計画（素案）において、「子どもたちの学びや成長の場として利用できる誰もが気軽に憩いかつろげる空間の創出」といった理念・コンセプトを掲げています。

この理念等に基づき、スポーツゾーンには、多目的広場やみんなの広場を整備し、遊具、ボール遊びなどに利用できる施設や近隣・広域からも訪れたくなるような空間を整備するとともに、スタジアムでは、部活動などにも利用できる一般開放の時間帯を設けます。また、緑の広場やシンボルプロムナードには、ベビーカーにも配慮しながら、大芝生広場や親水空間、イベントスペースなど、魅力的な空間を創出します。

これらにより、多くの子どもたちが一年を通じて安全・安心に利用できる、一般に開放された空間を拡大します。

• スタジアムは7年間使えなくなるのではないかと。アメフトがこの地に戻って来なくなる。

- 王子公園再整備の計画概成は令和12年度末を目標としています。現在のスタジアムについては、大学への土地の引き渡し後（令和8年度末予定）に解体することになり、年単位での一定期間の休止が生じると考えていますが、7年間全く使用できないということはありません。

また、新スタジアムは、アメリカンフットボールを含め様々なスポーツでもご利用いただくことを想定しており、閉鎖期間中の利用に関しては引き続きアメフト連盟等と協議を進めていきます。

駐車場・周辺道路

• 樹木と壁面緑化は効果が違う。壁面緑化は設置費も維持管理費もかなり掛かる。

- 六甲山を背景とした景観と調和するようなデザインや緑化だけでなく、周辺の植栽もできるだけ残していきます。他の壁面緑化の事例も研究しながら、より良いものかつ維持管理費をできるだけ抑えたものを検討します。

• 駐車場からの車が野崎線に抜けることとなるが、交通対策等どのように考えているのか。
• 渋滞対策として、阪急沿線は拡幅しないのか。
• 原田線（長田楠日尾線）との交差点にある植樹帯を、駐車場の進入レーンとして拡幅しないのか。
• スポーツセンター駐車場の出入口を西側双方向にするとのことだが、渋滞対策はどうなっているのか。

- 駐車場を立体化し集約することで、駐車台数を抑えた500台程度とします。今後、交差点解析を実施しながら、周辺道路への影響を確認し、検討を進めます。

- 駐車場待ちの行列が発生しないよう、公共交通機関の利用促進施策等を行います。また、市道阪急沿線から駐車場アクセス園路に左折する際に、歩道の歩行者の通行を待つためのスペースとして阪急沿線の拡幅を検討しています。
- 原田線（長田楠日尾線）との交差点部にある植樹帯については、現時点では方針は決まっています。
- スポーツセンター駐車場は、出入り口付近などに警備員を配置することにより、他駐車場の空き状況を確認しながら円滑な自動車誘導を図り、歩行者や周辺道路の通過交通へ影響がないよう適切に対応していきます。

• スタジアムの地下に駐車場を設ける計画（「第 28 号 王子駐車場」：都市計画駐車場）があったのなら、なぜ補助競技場に立体駐車場を建てるのか。

- 今回、廃止しようとしている王子駐車場は、当時の周辺地域における駐車場不足に起因した路上駐車を解消することなどを目的として、現在の平面駐車場とは別に計画していたものです。

再整備に伴い、改めて現在及び将来の駐車需要を見直し、公園利用者のための駐車場とは別に駐車場を整備する必要性はないと判断し、都市計画の駐車場計画を廃止するものです。

現在の平面駐車場は、最も駅に近い位置にあり、今後、緑の広場・シンボルプロムナードとして、憩いくつろげる空間にしたいと考えています。土地の有効利用のため、サブグラウンド（補助競技場）の位置に集約し、立体駐車場として整備することとしています。

• 駅からのベビーカーや車椅子の方の歩行者動線をどう考えているのか。

- 駅からの動線確保について、阪急王子公園駅は東口がバリアフリー対応となっており、市道阪急沿線の再整備を行うことで、公園に向けて円滑な歩行者動線を確保します。

• 立体駐車場について高さに配慮するとあるが、具体的な数値を教えてください。

- 基本計画（素案）【全体編】17 ページの「駐車場 整備イメージ」における駐車場の高さは、現在の補助競技場の地盤面から 15m 程度、屋上テニスコートの防球ネットの高さは 10m 程度になります。

防災機能

- 新スタジアムをヘリポートや物流拠点にすると考えているようだが、開設する 7 年後まで降りられなくなるのではないか。具体像が全く見えない。
- 工事期間中は防災に対して無防備になる。防災に対してどう考えているのか。
- 防災機能について、既存の機能をどうするのか、具体的に考えてほしい。
- 災害時給水拠点が王子スタジアムにあると思うが、既存の防災機能をどうするのか。
- 王子公園が広域防災拠点になっている、災害時のトイレはどうするのか。
- 防災機能についても大学と協力するというが、災害時協定を既に結んでいるのか。

- 再整備にあたっては、全施設を同時に着手するわけではなく、場所ごとに順次整備に取りかかります。工事期間中についても、できる限りオープンスペースの確保に努めます。
- 王子公園の防災上の役割の重要性は十分に認識しており、基本計画（素案）においても、「阪神・淡路大震災の経験を活かした防災機能の確保・強化」や、「公園全体で広域防災拠点としての機能を強化」といった理念・コンセプトを掲げ、「ヘリコプター離着陸場の確保」「緊急避難場所や救援活動拠点の確保」「非常用電源や太陽光発電、かまどベンチなど防災施設の整備」といった計画概要を提示しています。
- 新スタジアムは現在と同規模のフィールドを整備する計画であり、ヘリの発着に問題のない十分なスペースが確保されます。
- 雨水貯留は緑の広場、給水拠点はシンボルプロムナードで確保することを考えており、その他の防災機能についても、基本計画（素案）に記載しております。
- 大学とも連携しながら、さらなる防災機能の強化について引き続き検討し、今後締結する大学との契約の中で担保していきます。

都市計画説明会・地区計画等

- 地区計画の策定は、地区住民の主体性に基づいた計画に。住民合意が無くてはならないとされているがどうか。

- 条例（神戸市地区計画及びまちづくり協定に関する条例）に基づく説明会や並行して行う地区計画の素案縦覧によりご意見を伺ったうえで、都市計画案の段階で反映すべきものは反映します。地区計画の素案から都市計画案を経て、都市計画審議会、様々な段階でしっかり適正に手続きを進め、地区計画の決定及び都市計画の決定の手続きを行います。

- 今までの説明では王子公園は 19.2ha と聞いていた。今回は 20.9ha となっている。

- 地区計画の区域は、周辺の道路や河川の中心を区域取りの根拠としているため、実際の公園の面積に追加される形で 20.9ha としています。

広報・周知

- 市民意見募集を実施していることを知らない人が沢山いる。図書館等にもポスターを張った方が良い。
- 私たちの知らないうちに再整備が進んだという思い。
- 子育て世代向けアンケート、出張子育て世代向けアンケートの結果を明らかにしてほしい。
- 反対意見がありながら、手続きどんどん進んでいる。
- 地区計画、この手続きは一旦中止して下さい。
- 引き続きこのような意見交換会の場を設けてほしい。

- 基本方針の検討にあたっては、市民や議会からのご意見を踏まえ、当初素案を見直すとともに、市民との意見交換会を開催するなど、様々な手法、機会を通じて市民等の意見を伺いながら修正素案をとりまとめ、市民意見募集を実施した上で策定しました。

また、基本計画(素案)の概要や市民意見募集実施の案内などについては、広報紙 KOBE

10月号に挟み込む形で、ミニニュース（第4号）を発行し、市民にお知らせしています。あわせて、市ホームページなども活用して、丁寧に情報発信を行ってきました。

- 基本計画（素案）の策定にあたっては、市民から直接ご意見をいただくヒアリングの場や、動物園についてのワークショップ開催に加え、市ホームページで意見送信フォームや子育て世代向けアンケートを活用するなど、多くの方々からご意見をいただきました。子育て世代向けアンケート等を含め、すべての意見を公表しています。

なお、説明会でのご指摘を踏まえ、子育て世代向けアンケート、出張子育て世代向けアンケートでいただいたご意見が分かるように、市ホームページを更新しました。

- 基本計画（素案）の市民意見募集は、1か月ではなく2，3か月行なうべき。
- 地区計画（素案）の資料閲覧期間が10日から24日までになっている、なぜ期間を限定しているのか。

- 条例（「神戸市民の意見提出手続きに関する条例」、「神戸市地区計画及びまちづくり協定に関する条例」）に基づき、実施しています。

事業費

- 体育館以外を整備するこの計画の事業費は一体幾らかかるのか。何千億とかではないのか。
- 旧ハンター住宅は、どこにどれくらいの費用かけて移転するのか。費用は王子公園再整備とは別なのか。

- 王子公園再整備の事業費については、基本計画（素案）において概算事業費を記載しています。
- 旧ハンター住宅は耐震性が不足していることから、解体・再建による耐震工事を契機として、ハンター住宅が当初立地していた北野への移築を検討しています。重要文化財のさらなる活用として、王子公園再整備とは別で事業を実施しています。

その他

- 基本計画（素案）について、カタカナ英語が多く、市民が本当に理解できるか。
- 動物園で一番大事なのは平和な社会だと思う。平和の理念を必ず入れてほしい。

- ご意見としてお聞きし、より市民の皆さまにご理解いただけるよう、わかりやすい基本計画の策定に努めます。

- 再整備により、解体時のCO2の排出量、大気汚染、騒音、光害といったことが出てくる環境アセスメントをするべきではないか。

- 環境影響評価法では、規模が大きく環境に大きな影響を及ぼすおそれがある事業を対象に環境アセスメントの手続きを行うこととしています。

さらに、地域の実情に応じた環境の保全の観点から、神戸市独自の取り組みとして、「神戸市環境影響評価等に関する条例」を制定し、法対象事業以外の事業や法対象より小規模の事業などにも環境アセスメントを実施することとしており、「都市公園の新設」等を対象事業としています。

王子公園再整備は、環境影響評価法や市条例に定める対象事業ではなく、環境アセスメントを実施する予定はありませんが、周辺への配慮は重要であると考えていることから、基本計画（素案）において、良好な景観を維持・向上していくため、六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するよう配慮した建築デザインや緑化等を検討していくこととしています。また、スタジアムについて、観客席の屋根・壁・吸音材による防音対策の実施や、周辺環境への光漏れに配慮した照明設備の検討などを行っていくこととしています。

なお、基本計画（素案）と市ホームページのFAQにおいて、建物規模をお伝えするパース図や概略の数値のほか、騒音についても設計の際に順守すべき規制値などを合わせてお示ししているところであり、今後、これらに基づき詳細な調査や設計を進め、具体化を図ります。

- 本日のスライド 60 ページをそのまま市ホームページで公表してほしい。
- 説明会のやりとりは公表しないのか。

- 説明会で投影した資料及び参考資料（計 60 ページ）について、10 月 12 日（木曜）に市ホームページにて公表しました。
- また、説明会でいただいた主なご質問等と市の回答を、10 月 18 日（水曜）に市ホームページにて公表しました。

- 市長と会えないのはおかしい。副市長・市長を呼ぶべき。
- 説明会の投影資料を印刷して配布してほしい。

- 説明会は、市の関係部局が市を代表して行っています。
- 投影資料は、説明会中（10 月 10 日）に印刷し配布しました。